

「音と映像の保存庫」 ご紹介

I. 保存庫スタートまでの経緯

平成 16 年 5 月 18 日 **大和工場第 6 棟 1 階** (旧技術ビル) にオープンしました。

当日は展示品を約 300 点寄贈された(株)湘南・社長稲葉全彦ご夫妻を招き、会社側からは山口・土谷・山内の 3 専務をはじめ関連された部門長も参加しました。

又運営面で協力する事になった「ビクター寿会」よりは今泉会長 (現在は退任)・高橋副会長 (現会長) も参加しました。

「音と映像の保存庫」の名称は稲葉様が白馬村の山荘に昭和 47 年に個人で集めた蓄音機やテレビ等を、昭和を代表する製品として展示して「昭和の音と映像の保存庫」と命名して管理運営してきたのを、当社が名前も引き継いだのではと推測されます。

II. 保存庫の展示ポイント

3 カテゴリーに分けて展示されています。導入部は「音に関するコーナー」でここでは音の歴史を語る時に、欠かす事が出来ないエジソンのシリンダー蓄音機「スタンダード A」やビクターマークでお馴染みの円盤式蓄音機「グラモホンスタイル NO 2？」などの貴重製品が展示され又ビクター・トーキングマシン社のビクトローラも傷はありますが一角を確保しております。

戦後の製品では高性能・高音質で業界をリードした 7 球スーパー 7 AW-1 がありマジックアイも頑張っています。

又昭和 40 年以降では S T L-661・S X-3 等の業界をリードした懐かしい商品群もあります。

次の「映像関連のコーナー」で 14 インチ白黒テレビから 20 インチ・カラーテレビまでの進化を訴求しています。

ビデオでは V H S の第一弾 H R-3300 から高画質ビデオ H R-S 7000 までのヒット商品を展示しております。

最後は「業務用機器コーナー」ですが

一般的には馴染みがありませんが、ビクターとフィリップス社との共同開発のテレビカメラ等があり又使い込んだ測定器も大切に保管されて技術者の開発魂が感じられるコーナーです。

上記の 3 コーナーは OB には懐かしさを又現役社員の皆様にはモチベーションアップになればとの願いもあります。

III 保存庫アドバイザーとは

ビクター寿会より 4 名の O B が保存庫担当アドバイザーとして送りこまれました。常駐の社員は居りませんので 4 人が 2 名一組で水曜と金曜を担当しております。

相互の連絡はパソコンの Email を活用して在宅勤務スタイルで頑張っています。

早いもので開館後 1 ヶ月が経過しましたが毎回 10 人前後の来館者があります。中には自分が設計の製品が無いので寄付するとか、直接持参頂くなど、隠れた支援者が多いのに元気づけられています。

IV 見学の申し込みは(団体の場合)

開館日：(水) (金) a m 10 ~ p m 4

申し込：(人総) 総 G 矢部主査

045-450-1580

アドバイザー紹介：(定年前の職場)

佐々木一三(H10/03 CS 本)

白杵謙介 (H08/01 VBS)

佐藤滋樹 (H08/04 ビ購買)

西野保夫 (H10/01 東京客セ)



皆様のご来館をお待ちしております。

平成 16 年 6 月 西野 保夫